

道徳学習指導案

指導者 広島市立〇〇〇中学校

教諭 〇〇〇〇

- 1 日 時 平成21年11月〇日(〇)
- 2 学 級 2年〇組
- 3 主 題 名 家族愛〔内容項目4-(6)〕
- 4 資 料 名 「母の涙」『中学道徳1』(光村図書)より一部改作

5 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

自分が存在し生きているのは、父母があるからであり、またその祖父母がいたからである。この命のつながりの中で自分が生を受け、家族の愛情に育まれて成長してきた。自分のことをかけがえのない家族として大切にしてもらっていることは、分かっているつもりでも、日常の生活を送るなかで実感したり、さらには、その気持ちを言動に表わしたりすることは難しい。時には、家族がよかれと思ってしてくれたり、言ってくれたりしたことに反発をして、言い争ってしまうこともある。ただ、一見厳しく見える家族の言動の中にも、実は自分たちへの深い愛情が込められている。道徳の時間を要として、日常を振り返ることで、自分が家族の一員であることをあらためて自覚させるとともに、よい家庭を築いていこうという意欲をもたせたい。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、活発で明るい面も持っているが、自己中心的な言動も多い。ときには、人を傷つけてしまうこともある。ただ、自分の生き方にかかわって興味や関心をもつことであれば、考えを深めていくことができる。家族のことについては、自分自身のこととして考えやすいと考えられる。

授業では、自分の考えや思いを書くことができるようになってきたが、発言することには、まだ苦手意識を持っている生徒が多い。そこで、まずアンケートやワークシートに自分の思いを書かせて、それをもとに発言をするよう促し、出された生徒たちの意見を板書にまとめていくことで、お互いの考えを理解し、新しいことに気づいたり、考えを深めることができたという実感をもたせたい。

(3) 資料について

美由紀は、五百グラムで出生し、視力がない。母親は、美由紀が幼い頃から、自分のことは自分でできるようにと、厳しく育てていく。小学校3年生の頃、美由紀は、自転車に乗る練習をしていて、転んで血だらけになるが、母が手助けをしないため、冷たい母親だと感じた。しかし、その後、乗れるようになったとき、何でも、やるんだと思ったらできるんだと言って励ましてくれた。美由紀は、これまでの母親の姿勢が、実は自分への愛情に裏打ちされていたことに気づいていくという資料である。文中に何度も出てくる母の「涙」の意味を考えさせたい。そして、頑張ることや礼儀作法などを教えてくれる母が好きだという気持ちへと変容していく美由紀の姿を通して、ねらいとする価値に迫りたい。

6 事前・事後の指導について

事前に、家族に対する自分の気持ちに気づくための簡単なアンケートをする。本時の導入でその結果を示し、学習内容への興味を喚起する。

事後は、これまで道徳の時間や総合的な学習の時間などに生徒が書いた感想を、学級通信「〇〇〇」に掲載し、学級で読むことにより、家族の愛やつながりについて、自分の感じ方と他の生徒の感じ方が違うことに気づかせたい。さらにはこれをきっかけとして、人間としてよりよく生きていきたいという気持ちを、学級のみんながもっていることにも、気づかせていきたい。

7 本時のねらい

自分を産み、育ててきた母に喜びの涙を流してもらいたいと思うようになった美由紀の姿を通して、家族からの愛情をあらためて自覚させ、よい家庭を築いていこうとする意欲を養う。

8 学習指導過程

	学 習 活 動	主な発問 (○) と予想される生徒の反応や心の動き (・)	留意点 (※) と評価の観点(☆)
導 入	1 学習に入る準備をする。	○ アンケートの結果を発表します。 ・そういうこともあるな。	※内容と関連することに意識を向ける。
展 開 前 半	2 母が涙を流した気持ちについて考える。 3 美由紀の気持ちが変わった理由を考える。	○ 美由紀が生まれたときに涙を流した母の気持ちと、将来物が見えないと言われたときに涙を流した母の気持ちをワークシートに書いて発表しよう。 ・なぜこんなことになるのか。なぜ自分が。(衝撃) ・小さく生んでしまっでごめんね。(謝罪) ・かわいそう。何とかならないのか。(憐憫) ・この先どうしたらいいのだろう。(不安・心配) ○ 「何て冷たい母親だろう」と思っていた美由紀が、「今度は母に喜びの涙を流してもらいたい」と思うようになったのはなぜだろう。ワークシートに書いて発表しよう。 ・「やると思ったらできる」ことを教えてくれたから。 ・厳しさには、実は愛情があったから。 ・本当は、美由紀のことを考えてのことだったから。 ・言葉だけでなく、身を以て教える母の気持ちが分かったから。 ・母の愛情に感謝し、次は自分が、母に何かしてあげたいと考えるようになったから。	※ 机間指導するとき、記述をメモして、意図的な指名に備える。 ※ 発言を分類し、生徒と確認しながら黒板にまとめていく。 ※ 前述の涙と対比させ、発言には、揺さぶりをかけたり、細かい心情を尋ね返したりすることで思考を深める。
展 開 後 半	4 自分自身の体験を振り返りながら、家族についての考えを深める。	○ 自分が困ったときなどに、家族にしてもらったことを発表しよう。 ・体調が悪いとき、心配してくれた。 ・悩んでいるとき、相談にのってくれた。 ・落ち込んでいるとき、旅行や買い物に連れて行ってくれた。 ・自転車に乗れるようになるまで教えてくれた。 ○ 自分にとって家族とはどのようなものだろう。自分はどうな家庭をつくりたいのだろう。ワークシートに書いて発表しよう。 ・最初の社会生活の場。 ・命を生み、育むところ。居場所。 ・ともに生活をして、助け合うもの。 ・かけがえのないもの。 ・自分を支えてくれるもの。 ・いざというとき、心の支えになるもの。 ・自分も家族を、喜ばせることができる。	※ 細かくは立ち入らない。時間の都合で省くこともある。 ※ 身体的なもの、精神的なもの、両面あることに気づかせる。 ☆ 自分が家族の一員であり、より良い家庭を築いていこうとする気持ちが表されている。
終 末	5 まとめ	○ 今回の授業を振り返り、まとめの感想をワークシートに書こう。	※ 教師が話をし、余韻を持って終わる。

※準備物…アンケート結果、ワークシート、人物イラストなど